

行き詰まり症候群

アンディ美湖

3：新しい文化に出会う：

(訳：美湖純子)

ポストモダン世界にインパクトを与える Copyright 2001 Andy Meeko

世界は、私たちが考える以上に急速に移り変わっています。私たちが文化を認知したときには、すでに時代遅れになっているかもしれません。コンピューターが数ヶ月で旧式になってしまうように、私たちを取り巻く世界を理解することも時代遅れになってしまうのです。移り変わっているこの世界は、しばらくの間着実に進行しています。それはポストモダン文化と定義され、全世界的なものです。ある人は認知していないかもしれませんし、ある人はそのインパクトを過小評価しているかもしれません。しかし議論の余地なく、それは次世代に多大な影響力を及ぼすのです。ポストモダニズムは私たちが慣れ親しんでいる現代世界に対する反動です。それは道理や科学では説明がつかないところに意味をもたせようとしています。ですから私たちが物事を学んできた現代の仕方；秩序、規制、安定、単一性、そして不変は、ポストモダンでは、混沌、不確実、他人志向、あからさま、多様性、変化として了解されるのです。ポストモダンの人々は正統派の信念や絶対主義を嫌い、自由と神秘を好みます。日本においても伝統的な学校を嫌う若者、雇用者の間を行き来する会社員、自分のユニークさを主張しようとする人々など、ポストモダニズムの傾向をみることができます。ポストモダニズム文化は、ビジネス、建築、芸術、教育、技術、哲学どんなことにおいても変化を与えています。私達が好もうと好まざると教会にも変化を与えるのです。

個人的には私はポストモダニズムをなにか恐れるものとは考えていません。その反対にそれから多くの物を得られると思っています。私達の考え方、生き方に新しい方法を教えてくれるということだけでなく、全く新しい新鮮な機会を備えてくれるでしょう。とくにそれを敏感にとらえている教会にとっては。ポストモダニズムは私達を古い模範の堅苦しい理論的な事柄から開放し、自主的な人類の幻想に邁進し、神聖さと一致を人生にもたらそうとするのです。これは潜在的にキリスト教が働けるすばらしい基礎ではないでしょうか。私が特に‘教会’ではなく‘キリスト教’と言ったのは、ポストモダニズムにおいては、教会などの施設は懐疑的にみられるのです。この懐疑心は、これらの施設は私達が神に出会う助けにならないという理解から起こっています。この非難を私たちは心に留めるべきです。それゆえ、ポストモダン文化においては伝統的な教会はこの地上において最も行きたくないところ、神を求めるのに一番遠いところなのです。ポストモダンでは海岸や山頂で神を求めるのです。星を見つめながら、また、チベットの道を歩きながら、...

しばらく、教会に対する物事の見方の古い枠組みと新しい方法を考えてみましょう。

現代	ポストモダン
組織と機能	多様性と多元性
目的志向	人間関係中心
自分志向、個人主義	世界志向、コミュニティ中心
階級組織	一致と協力
物質主義	公民道徳
合理主義 / 科学的方法	個人体験を尊重

世界を見てみると、東洋は西洋よりももっとポストモダンが進んでいるでしょう。それでここ2-30年東洋思想が大量に西洋に輸入されました。ポストモダニズムの広がりが科学の見解に多大に変化を与えているのをみるのは驚くべきことです。アメリカの書店には、超自然現象、夢、天使に関する本が溢れています。実際、アメリカの最も人気のあるテレビ番組は天使が地上で活躍するドラマです。この変化はヨーロッパにおいても明白です。ヨーロッパは啓蒙運動、また工学科学文明の発祥地であるにもかかわらず、今日ドイツでは10%が魔法使いを信じているし、イタリアでは57%以上の人々が占い師のところに行きます。しかしながら、奇妙なことに、日本におけるキリスト教は世俗文化以上に西洋文化を取り入れているようです。おそらく、西洋または現代文化が日本に来たとき福音に結びついたのでしょう。私は、将来もっと日本独自のキリスト教が発達することを願っています。

それでは、ポストモダンが教会に実際的にいったいどんな変化を与えるのでしょうか。この新しい文化が私達に根本的な影響を与えるはずですが、それで私達はこの文化の人々に通じることができるのです。私の父が東京で教会を開拓していたとき、父は救われた人たちの多くがエンジニアであることに気付きました。その時の父の理論は、キリスト教の理性的な要素が、理性的に考えることを訓練された人々を惹きつけたということです。15年経って私は早稲田大学の工学部で伝道をしていました。父の経験を思い出して、青年たちが福音の合理性に反応することを期待していました。多くの学生に伝道して、全然状況が違ってくるのが分かりました。私が明らかに気付いたことは、彼らは知的に動かされるのではなく、むしろ感情的に動かされることを求めているということです。彼らは神を体験することを求めているのです。それはポストモダニズムです。興味深いことにちょうど同じ時、オウム真理教も早稲田大学工学部で若者の魂を勝ち取ろうとしていました。オウムの宣伝ポスターは、浅原樟光が胡坐を組んで宙に浮いている姿で、超自然的な経験を期待させているものでした。悲劇的にも彼らは早稲田の多くの有望な青年を勧誘することに成功したのでした。

私たちは真理を語るのに時代遅れのアプローチに頼ってはいないでしょうか。私は伝道戦略のためある人が日本に来たのを思い出します。彼はキャンパスクルセードのリーダー達に‘すばらしいアイデア’を提示しました。若者にインパクトをあたえる彼の戦略的は渋谷でした。彼は私達に、電車の駅に沿った道の配置を利用するよう指示しました。まず、駅のまん前の交差点でキリストの独自性を宣伝します。その大交差点から続くそれぞれの道にキリストの独自性の様々な要素を弁証論的に伝えます。旗やトラクト、スピーカーを使いながら。良いアイデアかもしれませんが。しかしアプローチの仕方は、非常に現代的で、冷たく、組織的で、理性的な現代人を惹きつけるかもしれませんが、ポストモダン時代の若者が求めている経験とはかけ離れています。

ここで多くのクリスチャンが不快感を覚えます。ポストモダニズムは、私達が物事を考えたり行ってきた方法の歯車を確かに狂わせてしまいます。ある人はそれを神聖冒涇とさえ考えるでしょう。私はドクターコースの授業で、ポストモダニズムの意味するものに対する牧師達の興味深い反応を思い出します。15人ほどのクラスでしたがほとんど全員ポストモダンのパラダイムに否定的でした。それはまるで、彼らの反応によって、その年齢を推測できるようでした。年をとっていればいるほど、ポストモダニズムに関するアイデアに強く否定的で、若ければ若いほどもうすこし柔軟性がありました。ほとんどすべての牧師がポストモダニズムを文化に反する教義として混乱しているようでした。しかしながら、すべての宣教師が知っていますが、意思伝達するためには新しい言語を学ばなければなりません。今日の日曜学校で文語体聖書を使わないのは常識です。すべての世代には多少新しい言葉があり、多少新しい方法で世界を見ます。

今日若者はどんな価値観を持っているでしょう。私達はそれを見出さなければなりません。George Barna がアメリカで研究したある変化は、日本のポストモダニズムにも当てはまるようです。まとめた項目はこれです。

関係を重んじる。施設ではない。

人々の多様性よし。

変化よし。

交わりや人生を楽しむことは、生産、達成に勝る。

絶対性はない。

霊的真理は様々な形がある。

自己を表現せよ。

物事は急速に変化しています。若者は私達が考えるようには考えないことを肝に銘じなければなりません。このことは私達にとっては居心地わるいことかもしれませんが。し

かし、真理はことの良し悪しではなく、ただ違いがあるということです。私達には2つの選択があります。彼らを理解して教会を彼らに合わせるか、自分のやり方を貫き、彼らを寄せ付けないかです。若い世代が教会にとってどれほど貴重であるか考えると、私は、彼らの望みを少し満たすだけでなく、私達のもぞみをおさえ、彼らの要求に応えていくことを選びます。これこそ、他者のために死ぬというキリスト教の精神ではないでしょうか。実際、数十年もすれば、どちらにしてもそうなるのです。私達は去り、将来は彼らにかかっているのです。